

2020年4月14日

読書のすゝめ 図書館から



新着図書だよりをアップしました。20日と21日の登校日には、ぜひ図書館で本をかりて行ってください。新着図書から三冊ピックアップしてみました。

町田俊之 監修、『世界でいちばん素敵な聖書の教室』、三才ブックス、2019年（請求記号 193 マ）

タイトルに偽りなし。誰でも気軽に聖書の物語に触れることのできる作品です。しかも、一流の西洋美術の作品とともに、聖書の世界をたどることができます。多くの美術館や博物館が閉館している昨今、読むにはうってつけです。そして、読後はきっと美術館に足を運びたくなるでしょう。



ジェームズ・リーズ、『世界の歴史を変えたスゴイ物理学 50』、ゆまに書房、2018年（請求記号 420 リ）

私は物理学は得意ではありませんが、物理学の歴史なら非常に興味を持てます。かのニュートンはペスト禍のケンブリッジ大学を避けて、故郷にこもっていた時に後の数々の業績の礎となる研究をおこなったそうです。こんな時にピッタリの本ではありませんか。

マルクス・ガブリエル、『新実存主義』、岩波新書、2020年（請求記号 134 ガ）

今最も注目されている哲学者の1人です。すでに多岐にわたる議論を展開している著者の思想の全容を、この一冊で追う事はもちろん不可能です。ですが、大哲学者の思想の一端に触れることは意味のあることです。新書とはいえ、思想書を読むのは大変です。でも、このレベルのものを高3生には読んで欲しい。

